# 顕　　彰　　状

廣岡達朗氏は、1932 年 2 月 9 日広島県呉市に生まれた。早くから野球選手としての頭角を現し、1949 年、呉三津田高等学校在学中に全国高等学校野球選手権西中国大会決勝に進出した。

1950 年 4 月、早稲田大学教育学部社会科社会科学専修に入学し、野球部に入部した。東京六大学野球リーグ戦では遊撃手として活躍し、在学中には 4 度の優勝を経験したばかりでなく、その華麗な守備で名を馳せ、「六大学(神宮)の貴公子」と呼ばれ、4 年次の 12 月、日本プロ野球東京読売巨人軍（読売ジャイアンツ）に遊撃手として入団した。

本学を卒業した 1954 年、廣岡氏はセントラル・リーグにて、打率 3 割 1 分 4 厘、本塁打 15 本、打点 67 点を記録して最優秀新人（通称：新人王）に輝き、シーズンで好成績を残した選手に贈られるベストナイン賞にも選ばれた。廣岡氏は、日本プロ野球においても学生時代と同様に名遊撃手として活躍し、三塁手の長嶋茂雄氏と共に「鉄壁の三遊間」と呼ばれた。

1966 年 10 月に現役を引退し、翌 1967 年、自身の目指す野球を極めるために単身渡米し、メジャーリーグの練習法や複数の選手を先発投手として起用する先発ローテーションの考え方など、将来の指導者としての基礎を学んだ。

帰国後は野球評論家として活動した後、1969 年に広島東洋カープ内野守備コーチに就任し、優秀な選手を育て、後の広島黄金時代の礎を築いた。広島東洋カープ退団後、1973 年にヤクルトスワローズに守備コーチとして入団した。1976 年にヘッドコーチに昇格し、さらに同年シーズン途中の 6 月、監督に就任した。

廣岡氏は、情報が少なかった当時から、科学的根拠を基にした基礎練習や食事管理を行い、徹底した「管理野球」を実践して功績を挙げた先駆者であり、専門家の指導によるウエイトトレーニングの導入、球団初の海外キャンプの実施、投手の分担制など、米国メジャーリーグから学んだ知見を実行に移した。その結果、1978 年、ヤクルトスワローズはセントラル・リーグ初優勝および日本シリーズ優勝と、悲願の日本一を実現した。

1979 年にヤクルトスワローズを退団し、日本テレビの野球解説者として人気を博していたが、複数の球団から監督要請を受けた中から、1981 年に西武ライオンズ監督に就任した。当時、パシフィック・リーグ下位に甘んじていた西武ライオンズは、廣岡氏の監督就任一年目の 1982 年、リーグ優勝を果たし、日本シリーズをも制したのを皮切りに、1985 年 11 月に退団するまでの間、三度のパシフィック・リーグ優勝、二度の日本一を達成した。

西武ライオンズ退団後は、NHK などでの野球解説、指導者育成のための「ジャパンスポーツシステム」設立など、野球の振興に尽力し、今日まで野球界に大きな影響を与え続けている。また、この間、日本プロ野球の発展に大きく貢献したとして、正力松太郎賞、日本プロスポーツ大賞、野球殿堂競技者表彰など数々の表彰を受けている。

ここに早稲田大学は、日本野球界と早稲田大学に対する永年にわたる多大な功績と献身が特に顕著である廣岡達朗氏を、早稲田大学スポーツ功労者として表彰し、その名誉を永く讃えるものである。

２０２１年９月１８日

早　稲　田　大　学